

資料4 稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議実施概要

平成 29 年 4 月

1. 稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議の概要

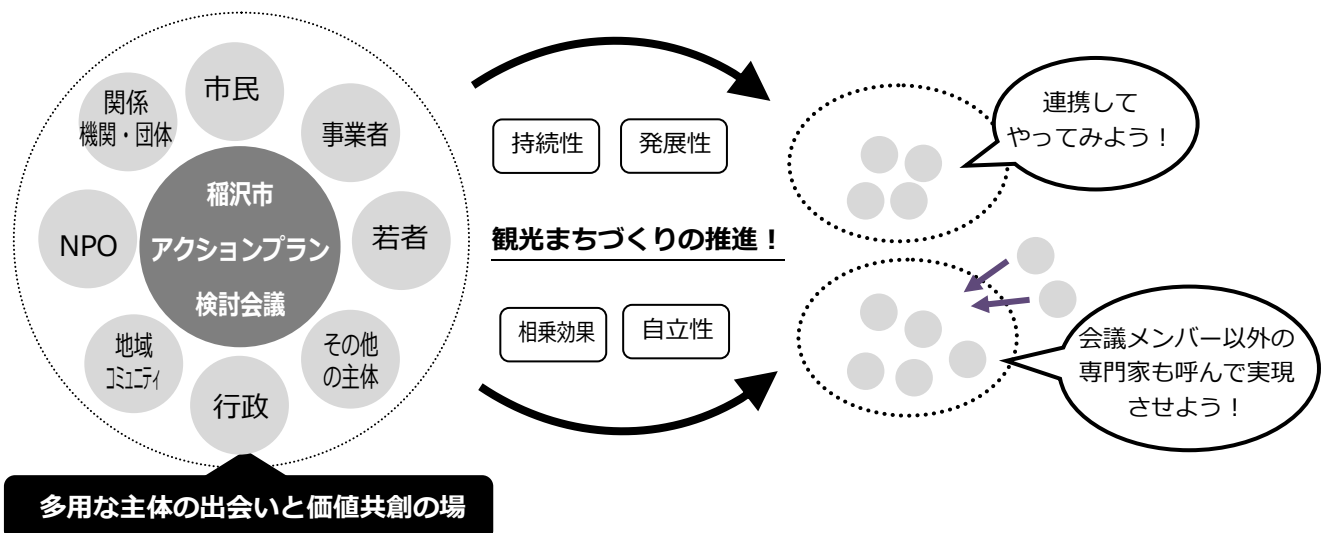
アクションプラン検討会議は観光に携わる多様な主体が集まり、観光を通じて稲沢市の活性化を検討実践していく組織です。平成 29 年度はワークショップを通じて稲沢市観光基本計画及びアクションプランにおける事業立案を行うとともに、観光まちづくりの機運醸成を図っていきます。また、今までつながりのなかった事業者や団体間におけるネットワーク構築の場としても活用します。

- ① 市民・行政を含めた多様な立場からの事業立案
- ② 稲沢の観光まちづくりを担う企画実践組織設立のきっかけづくり

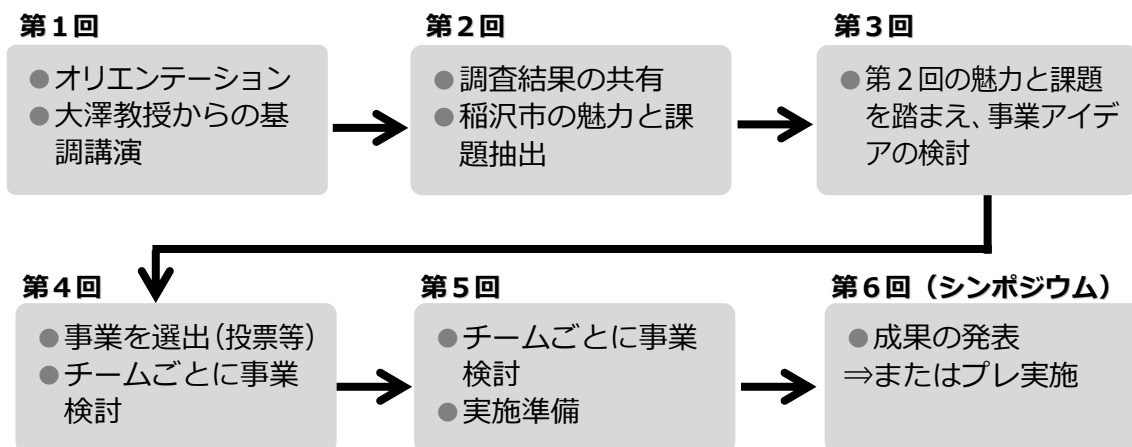
■アクションプラン検討会議のメンバー構成イメージ

メンバー候補	備考
策定委員会 追加委員（4名）	・ 策定委員会と兼務いただくことで、2つの会議をつなぐ役割を想定。
ヒアリング対象者及び観光協会との調整により選出（10名～15名程度）	・ 観光協会にはワークショップにおける各チームのコーディネート役等を想定。 ・ 5月中旬～6月中旬に実施するヒアリングを通じて、声かけを行う。
合計 15～20名程度を想定	

■アクションプラン検討会議のイメージ



■稲沢市アクションプラン検討会議のフレームワーク



※プログラムは変更の可能性あり

回数	日時	内容
1回目	7月5日(水) 10:00~12:00	・観光まちづくり基調講演 講師：和歌山大学 経済学部 大澤健氏 ・オリエンテーション(策定方針、スケジュール等)
2回目	9月上旬~中旬	<稲沢の魅力や課題を共有しよう！> ・調査結果の共有 ・ワールドカフェ 「稲沢の面白いモノ・コト・ヒト」 ⇒稲沢の魅力や課題を自由に出していただく。
3回目	10月中旬	<魅力を体感できるアイデアを考えよう> ・魅力フィードバック(前回の振り返り) ・事業アイデアの検討(魅力の相乗効果を考える！) ⇒KJ法により、第2回で出された魅力や課題を基に、事業アイデアを検討する。
4回目	11月中旬	<アイデアを具体化しよう> ・投票形式等で、具体化していく事業アイデアを絞る ・アクションプランの検討 (誰が、どうやって行うのか。どことの連携が必要なのか。)
5回目	12月中旬	<アクションプランを検討しよう> ・アクションプランの実現に向けた準備 ⇒もしくは発表準備
6回目	3月10日	<アクションプランを発表(実践)しよう> ・3月10日開催予定のキックオフシンポジウムにて、検討したアクションプランの発表を行います。 (進捗により、プレ実施も検討)

※必要に応じて、フィールドワークを実施

3.ワークショップの主な手法

「KJ法」は、ふせんを使って行う検討の方法です。具体的な進め方は次のようになります。
(※KJ法…この手法を考案した文化人類学者、川喜田二郎氏のアルファベットからこの名前がついています。)

① 1人ひとり、意見カードを作成する。

- ①「ふせん」(自由に貼ったり、はがしたりすることができるメモ用紙)を1人10枚程度配布します。
- ②テーマに沿った内容を、1つのふせんに1つ、記入していきます。(同じふせんに2つの意見を書くと、あとで意見の分類ができなくなるので注意してください。)

ふせんに記載されたことだけが記録されます!



② 自分の意見カードを読み上げながら発表する。

- ③ふせんに意見を書き終わったら、一人ひとり書いた意見を発表しながら、模造紙にふせんを貼っていきます。その際、なぜそう思ったか、その背景についても述べて下さい。
- ④他の人の意見を聞いて、ひらめいたことがあれば、再度ふせんに意見を書いて追加して下さい。

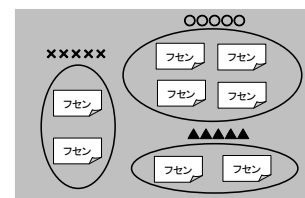
必ず全員が発言してください!



③ 意見をグループ化する。

- ⑤意見が出たら、今度は似たような意見のふせんを整理・分類していきます。
- ⑥ある程度ふせんが整理・分類できたら、個々のグループの内容がわかるように、タイトルをつけて下さい。
- ⑦可能であれば、グループ化された内容の相関関係も書いてください。

イラストなどをつけてもOK!



④ グループ全体の意見まとめを発表する。

